

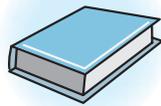
人権教育
ともに生きる 119
心配り

みなさん、「江戸仕草」ってご存じですか。ある雑誌の中で、この言葉が妙に心に残りました。後で調べてみると、「江戸仕草」とは昔、江戸に住む人々が、お互いに心地よく暮らせる様にと生み出された生活の知恵ということがわかりました。その中で興味深かったのが、「傘傾げ」

「傘傾げ」 傘を横に傾けて相手に雨の滴が
「肩引き」 かならない様に気を配ること
「腰浮かし」 狭い道で誰かとすれ違う時、肩を横に引いてぶつからないようにすること
「席が込んでる時、少しずつ席を

詰め合って、一人でも多くの人が座れる様にしたこと
今この世の中、みんなが忘れかけている行動や態度ではないかと思えます。絶対に守らなければいけないという訳ではないのですが、人が生きていく上でのマナーです。これは、本心にちよっとしたことです。人が、人権とは、小さいことを一人ひとりが、行動を起こすことから始まると思えます。それぞれが、それぞれの態度、言葉、行動の中で心配りを実践すれば、みんなの心にも潤いが出て、ギスギスしたところが少しはとれるのではないのでしょうか。

野田陽子



図書館へ出かけよう。

【休館日】 3 / 5 (月) 12 (月) 19 (月) 21 (祝) 26 (月) 【月末整理】 31 (土)

話題の新刊 おすすめの本



筑波根物語

水上 勉作

病に苦しみながらも純真で多感な抒情詩を書き続けた詩人・横瀬夜雨の生涯を描く。雑誌発表されてから40年程を経て、老いと病をおして死の直前まで手直しを重ねた傑作。水上文学の凝縮との声もある。

10歳の放浪記

上條 さなえ 作

父と二人で食べる事に精一杯のその日暮らしをしていた早苗を温かく支えてくれたのは、街で出会った人たちだった。子ども達に愛と勇気を伝えたい想いで児童文学の道に入った作者の幼い頃の話。



海のおっちゃんになったぼく

黒井 健作

海で拾った青いビー玉は、なんと海のこどもだった。少しずつ大きくなる海。大きくなりすぎた海を捨てようと思ったら…。海の男・漁師の話かと思いきや、海のお父さんになってしまったお話です。

その他 おすすめの本

- ◆小説家 (勝目 梓)
- ◆華の棺 (西村 京太郎)
- ◆ぬけられますか-私漫画家 滝田ゆう (校條 剛)
- ◆中庭の出来事 (恩田 陸)
- ◆赤ちゃんへ手編みの贈りもの (村林 和子)
- ◆リベックじいさんのなしの木 (ホグロギアン)
- ◆おんちのイゴール (きたむら さとし)
- ◆あしたのねこ (エム ナメエ)
- ◆ホームランを打ったことのない君に (長谷川 集平)
- ◆いつもそばに犬がいた (ポールセン)

市民文芸

《麦の芽短歌会 多久麦の芽互選》

残り咲く菊に師走の雨降れば
 聒くごとく首振り交わす
 もの忘れ老いの抜け道とおり行く
 娘の帰り待つ秋の夕暮れ
 新春を飾りてほころぶ白梅の
 少女のごとく恥らふがに見ゆ
 誘はれて冬の見帰りの滝訪へば
 夏とは違う静寂のあり
 時々は訪ひてくれよと云ひ給ふ
 大宰府に義兄は年老ひまして
 栗原 瑛子
 本村 則子
 寿代

《あざみ俳句会 あざみ俳句会互選》

張り替えし障子日差しを集めけり
 湯豆腐の思い思いに踊りけり
 八十路へと踏み出す一歩初鏡
 土竜打元の闇へと戻りけり
 それぞれの顔想い出し賀状書く
 中嶋 清子
 川内すみ子
 田中 惊子
 武富 律子
 光野 正子

《多久川柳会 林口 岳生選》

乱れる世はかる定規も不透明
 好き嫌い無しにのみ込む収集車
 お先きにと千年の樹に老いの床
 古里をいっばい詰めたロライン
 談合は浜の真砂の尽きるとも
 不二見恵美子
 木下 ユキ
 西山 残月
 松下 修
 富安 正喜